

Part 2

イギリス ノースウェールズ癌治療センター
の場合

Dr. David Gozzard

Consultant Hematologist at the
North Wales Cancer Treatment
Center (NWCTC), England

Specialties include Hematology
and Laboratory and Medical
Computer Systems

ノースウェールズ癌治療センターのご紹介をお願いします

当センターは、2000年6月に開設されノースウェールズ全地域の患者さんの診察を行っています。それまでは、この地域における放射線による癌の治療は、マンチェスターのクリスティー病院とウィラルのクラッターブリッジ病院が行っていました。そこで、我々は12年も前から自前のセンターが持てるように努力を続け、やっと実現しました。

現在、当センターの放射線科には線形加速器が2台、通常電圧の加速器が1台あります。入院ベッドは、病棟に20床、外来用短期専用ベッドが16床、そして一日中診察に追われている外来患者診察室があります。

センターには5人の放射線専門医と、わたしを含めた2名の血液学の専門医が配属されています。この他に、看護員、レントゲン技師およびサポートスタッフとで専門家チームを構成して、医療スタッフと密に連携を取り合っています。

月平均600件の外来、さらに、毎年2000件の新しい症例に対応していますのできわめて忙しく働いています。

血液検査装置はどこに置いておられますか？

当センターにはホリバグループのひとつであるABX社製の自動血球計数CRP測定装置MICROS CRPが2台導入されており、それらを我々自身が使っています。1台は短期入院の患者さんの部屋に置いており、最近購入した2台目の装置は外来診察室に置いています。

この装置は、当センターが開設した当日からずっと同じ場所で順調に稼働しています。実は、当初ちょっとした事件がありました。開設初日、中央検査室にサンプルを送り込む気送管にトラブルが発生しましたが、みんなで対応しなんとか間に合いました。これは、我々が病棟で3ヶ月間この装置を使っていた経験を持ち合わせていましたから、みんな落ち着いて対応できました。本当のところは、初日から使えたので、ほっと胸をなで下ろしたと言うのが本音ですけどね(笑)。

MICROS CRP導入の目的を教えてください

まず第一は、化学療法を施してもよいか否かの臨床的な判断です。血液の検査結果によって、患者さんの骨髄が薬物の副作用に対応できるかどうかを決めます。

二番目は、患者さんがそのまま帰宅できるのか、あるいはひょっとして感染症にかかっていないか、入院が必要になるのかなどの判断です。CRPの検査によってそうした判断が可能になります。

また、CRPの測定は、わたしが臨床的に正しい診断を下す際に、専門医としてのわたしの判断に自信を持たせてくれます。つまり、CRP値が上昇している場合には、患者さんの体調が悪く、精密検査のために入院を考えなければならないこ

とがわかります。逆に、CRPの働きによって濃度が正常になった患者さんは退院させてあげることできます。また、ベッドの使用状況の管理や、患者さんが利用できるベッドを確保することもできます。

導入する前はどのような状況でしたか？

本装置を導入する前は、血液サンプルを検査するためにはいちいち中央検査室に持っていかねばなりません。検査には約2時間かかりますから、この間、患者さんたちは診察室でじっと待っていなければなりません。ご想像いただけるように、関係者全員が検査結果の戻ってくるのをひたすら待ち続けるのですから、当然、非常にストレスを受けてしまいます。もちろん、当の検査室自体も困っていました。というのは、検査作業をしている間ずっと、医局から検査結果の催促の電話がかかり続けていましたから。

外来の患者さんは、センターの検査システムがどのようになっているのを知ると、早い目に予約を取り、採血してもらい結果を待つこととなります。以前は、診察の予約を入れている患者さんの30人中20人は、早く採血してもらえるように朝の9時にやっこられました。もちろん、患者さんは採血技師が仕事を始めるのを待たなければならないのですが。

さらに、診察を担当する医師にとっても気の重い日々でした。というのは、診察室に次の患者さんに入ってもらおうとドアを開けると、順番待ちの患者さんがずらっと並んでいるのが見えます。患者さんたちは、次こそは自分の番ではないかと期待しながら待ちかまえておられますから。

導入後はどのように変わりましたか？

我々のすべての業務に大変役立っています。

まず、早朝の締め切りに間に合うようになりました。たとえば、病棟では患者さんの採血を朝一番に実施すると、朝9時に始まる病棟回診に間に合うように検査結果が戻ってきます。また、リバプールに血液生成物の注文を、朝9時半の締め切りに間に合わせなければならないという問題もなくなりました。

外来では化学療法を受けにくる患者さんを診察していますが、患者さんに中央検査室から検査結果が戻ってくるのを待ってもらう必要はありません。患者さんの治療を進めてよいかどうかもすぐにわかります。また、投薬の順番もうまくつながるようになりました。このように、治療現場でMICROS CRP分析器を導入したことにより、病院内のすべての流れが非常にスムーズになりました。

なかでも最も根本的な変化が見られたのは外来患者さんです。一日に診察する患者さんの数は今も同じですが、すべての点で以前よりはるかにうまくコントロールされており、一度に待っていただく患者さんの数はわずか2、3人になっています。

患者さんは来院すると、まず採血します。それから、患者さんの前で採血専門技師がMICROS CRPにサンプルを注入すると、ただちに検査結果がプリントアウトされます。長い間病院に通っている患者さんたちにとっては、この大きな変化は信じられないようです。

病院のスタッフたちは、仕事上のストレスが解消できたと大変喜んでいます。医師や看護婦たちは、毎日この分析器検査装置を使い、また日常的にメンテナンスを行っていますが、実に単純な操作ですみます。実は、先日も我々のミスから1週間分の試薬を使い果たしてしまったのです。それで、仕方なく古い検査装置に逆戻りしたのですが、それはもう、みんな苛立ってしまいました。

今後の期待とアドバイスをお願いします

実は、導入当初はこの装置の信頼性に疑問を持つ人もいました。この人は、病院内の別の部署でよく似た検査装置を使っていたことがあり、その時にあまり良くない経験をされたようです。正確な結果を得ることは検査プロセス全体の質にかかってきます。

我々が検査装置を評価する際のキーポイントは、UK NEQAS (United Kingdom National External Quality System : イギリス国家外部精度管理機関) が提供する標準サンプルを使って診察室の検査装置で測定し、その値が検査室と同じになるかどうかです。検査室からは精度管理用のサンプルを送ってきますが、代わりに我々の方からは鏡検が必要なサンプルを検査室に送ります。検査室のスタッフは、MICROS CRPから得られた結果に我々が満足すると診察室でのストレスが解消され、結果的に彼らもまた恩恵にあずかれることに気付いたようです。なぜなら、我々からの催促の電話はもう受けなくていいからです。

このように、MICROS CRPは、検査室を患者さんのすぐそばに運び、分析検査の待ち時間をなくすなど、診察室を静かにがらりと変えてくれました。最近、治療の質を顕著に改善したことにより、MICROS CRPが癌治療臨床理事会の推奨項目として選ばれました。

ありがとうございました